第47回 Book

私のお薦めの一冊

経営者の方の特別な一冊をご紹介します

● 今月のご紹介者

株式会社 一宮電機　代表取締役社長　秋田　博史 氏

『石橋を叩けば渡れない』

著 / 西堀栄三郎　　出版社 / 生産性出版

［概要］

西堀栄三郎氏は、日本が初めて計画した第1次南極越冬隊の隊長でした。本書はその時の探検の経験を中心に、「創造性の開発」をテーマにした西堀氏の講演の記録です。未知の南極探検に挑戦した体験や、新しい取り組みに対する心構え、部下の能力を伸ばす方法などを説いています。また、毎日を創造的に生きるためのコツを挙げ、組織の中で創造性を開発するために不可欠なチームワークについても語っています。

創造とは新しいことに挑戦すること。“石橋を叩けば渡れない” というのは、科学者として、また探険家としての氏の人生観に根ざした言葉であることがわかります。1972 年に発行されて以来今日まで、多くの人に読み継がれている名書です。これは西堀流創造的生き方のお話しです。

Q１：この本を手に取られたきっかけについて

本書を父の勧めではじめて手にしたのは20年近く前です。当時社内で幹部研修用の教材として使っていたことを憶えています。昨年5月のステイホーム期間中に、過去に読んだ本の中から、これはと思う本を読み直そうと思い立ち、その時に手にしたのが本書でした。

Q２：この本をお薦めしたい理由について

私は、４年前に事業承継し、父からバトンを受けました。創業者と違い、後継者というのは「石橋を叩いて渡る」傾向があります。やるかやらないかの判断をする時に、自信のなさから、ついつい必要以上の調査を求めてしまうことがあります。しかし、完全にリスクを防止できる調査などできるはずがありません。新しいことには、リスクがつきものなのです。本書は、ポストコロナを見据え、新しいことにチャレンジしていく際に、勇気や自信を持つことの大切さを教えてくれる名著だと思います。

Q３：どういった方にお薦めしたいですか

本書の舞台は、1957年、第1次南極越冬隊で、60年以上も前の物語ではありますが、年齢を問わず、多くの人の心に響く内容だと思います。特に私と同じような事業承継者には読んでもらいたいです。

一宮電機グループ

株式会社 一宮電機
本　　社：兵庫県宍粟市一宮町閏賀 358
資 本 金：7,842.6 万円
従業員数：307 名
事業内容：モータの製造